



▲オーストラリア・タスマニア滞在中に「鳥にハマった」という前田さん。「声を聞けば、タスマニアの鳥は8割わかります。このへんの鳥は、まだ勉強中です(笑)」。

### 移住のきっかけは？

生まれたのは宇品なのですが、小さいとき高陽に引っ越して、そこで育ちました。大学を卒業したあと島根県の宍道町にあるふるさと森林公園で研修生として1年間つとめて、広島に帰って正社員とかフリーターとかをしながらお金を貯めて、タスマニアに行きました。タスマニア大学で動物学や植物学、環境学や観光学などを総合的に勉強しながら6年ほど滞在したんですが、お金が尽きたので戻ってきて、西表島でリゾートホテルで専属アクティビティガイドとして2年働きました。もともと環境保全に興味があって、タスマニアに行ったのもそれを勉強するためだったんですが、リゾートホテルはマストゥリズムでどちらかというと開発なので、「本当にやりたかったのはコレかな?」と思って…。残っていた有給休暇とリフレッシュ休暇を使ってタスマニアとニュージーランドを放浪する旅をしてから広島に帰ってきて、可部のハローワークに行ったらたまたまココ(NPO法人西中国山地自然史研究会)が募集していて。家も、たまたま職場から10分くらいのところに町営住宅の空きがあって…。ご縁があったんですね(笑)。



▲自然館入口のポスター写真は、前田さん撮影のもの。

### 移り住んだときの印象は？

NPOの面接でも「田舎だから不便だけど、大丈夫か」と訊かれたんですが、海外とか西表島に比べたら、ぜんぜん。西表島は、ちょっとした買い出しは船で石垣島まで出ないといけないし、タスマニアにいたときはラーメンを食べたいと思ったら飛行機でメルボルンまで出ないと食べられなかったし。私

自身、すごくマイペースなので田舎じゃないと生きにくいのかもかもしれません。都会はセカセカしてるし人が多いし、煙たいし。雪も、けっこう好きなんで大丈夫です。いろいろな場所に行きましたが、北広島町、大好きです。世界中で見てきた良いところ、すごいところを北広島町に持ち込めたら面白いのかなと思っています。

## お仕事は？

認定NPO法人西中国山地自然史研究会のスタッフとして、ふだんは芸北・八幡にある「高原の自然館」にいます。観察会とか、研究・保全などの活動をしていますが、冬は自然館が休館になるので、芸北支所内にある研究室にいますが、冬でもたまに観察会をするんですよ。ぜひ来てください。

芸北では、一時期3つがいまで減ってしまったブッポウソウを増やそうと、巣箱をかける活動が20年ほど前から続いているんですが、いまはその保全活動のお手伝いをさせてもらったりしてます。やりがいのある仕事です。



▲甲虫など畑の害虫をエサとする益鳥でもあるブッポウソウ。30~40つがいが増え確認されるまで増えました



▲小鳥のような高く澄んだ声が魅力的な前田さんですが、高校時代から先生に「世界中どこでも生きていける」と太鼓判を押されていたとか。内に秘めた強さとたくましさはツキノワグマ並み？

## よかったことは？

ありがたいのは、みなさんいろいろ気を使ってくださって、新米とか野菜とか、いろいろくださるんです。「食べたことないじゃろ」って香茸とか（笑）。人のやさしさが、あったかいなと思います。

海外で暮らしてわかってくる日本の良さもあります。海外では、自然は使うものか保護するもののどちらかで、保護の立場に立つと「木を切ること＝悪」ですが、自然の恩恵をもらって有効に使うのが日本。

芸北の「せどやまプロジェクト」では、木材を買い入れて燃料などとして活用することで、せどやま（裏山、里山）にしかない植物を守ろうとしているし、雲月山の山焼きのように、草原が林になってしまわないよう手を入れたりもします。そういう、大昔から続いてきた、自然とともに歩んできた歴史がすごく素敵だなと思うんです。日本人でよかったなと。

## 移住を検討している方へのメッセージ

田舎ならではの不自由もあると思いますが、それを楽しめる人なら大丈夫かなと。たとえば、お店が少ないので週1回、浜田（島根県浜田市。車で30分程度）まで買い出しに行くんですけど、ドライブ気分を楽しみながら行ってるし、日々「今日はどんな生き物がいるかな？どんな景色が見れるかな」と思うとワクワクするし。あと、やっぱり空がキレイですよ。この間も夕焼けにすごい感動しました。四季があるから、景色や食感、風の冷たさとか、五感全体で季節を味わえるんですよ。だから1年中楽しい。けっこう、マイペースな人でも生きられますよ（笑）。

▲前田 美紗（まえだ ふさ）さん30代

移居前：西表島（沖縄県八重山郡）

現住所：北広島町雄鹿原

移住年月：平成27年